

地球温暖化対策計画書

1 指定地球温暖化対策事業者の概要

(1) 指定地球温暖化対策事業者及び特定テナント等事業者の氏名

指定地球温暖化対策事業者 又は特定テナント等事業者の別	氏名（法人にあつては名称）
指定地球温暖化対策事業者	東京都

(2) 指定地球温暖化対策事業所の概要

事業所の名称			東京都江戸東京博物館									
事業所の所在地			東京都墨田区横網一丁目4番1号									
業種等	事業の業種	分類番号	082	0_教育_学習支援業			その他の教育, 学習支援業					
		産業分類名	その他の教育, 学習支援業									
	事業所の種類	主たる用途	文化									
		建物の延べ面積 (熱供給事業所にあつては熱供給先面積)			前年度末	49,580.90	m ²	基準年度	1,305.71	m ²		
		用途別内訳	事務所	前年度末	1,980.17	m ²	基準年度	1,305.71	m ²			
			情報通信	前年度末		m ²	基準年度		m ²			
			放送局	前年度末		m ²	基準年度		m ²			
			商業	前年度末	1,263.98	m ²	基準年度		m ²			
			宿泊	前年度末		m ²	基準年度		m ²			
			教育	前年度末		m ²	基準年度		m ²			
			医療	前年度末		m ²	基準年度		m ²			
			文化	前年度末	41,919.51	m ²	基準年度		m ²			
			物流	前年度末		m ²	基準年度		m ²			
駐車場	前年度末		4,417.24	m ²	基準年度		m ²					
	工場その他上記以外	前年度末		m ²	基準年度		m ²					
事業の概要			博物館 ・平成4年11月しゅん功 ・地上7階、地下2階 ・1階 企画展示室、ホール、会議室 ・3階 江戸東京ひろば ・5、6階 常設展示場 ・7階 図書室									
敷地面積			29,293.29							m ²		

地球温暖化対策計画書

1 指定地球温暖化対策事業者の概要

(1-2) 指定地球温暖化対策事業者及び特定テナント等事業者の氏名

[illegible]

(3) 担当部署

計 画 の 担当部署	名 称	東京都江戸東京博物館 管理課
	電 話 番 号 等	0 3 - 3 6 2 6 - 9 9 0 9
公 表 の 担当部署	名 称	東京都江戸東京博物館 管理課 管理係
	電 話 番 号 等	0 3 - 3 6 2 6 - 9 9 0 9

(4) 地球温暖化対策計画書の公表方法

公表方法	ホームページで公表	アドレス :	http://www.rekibun.or.jp/about/activity/environment/
	窓 口 で 閲 覧	閲覧場所 :	東京都江戸東京博物館 管理課
		所在地 :	東京都墨田区横網一丁目4番1号
		閲覧可能時間	9 : 3 0 ~ 1 7 : 0 0
	冊 子	冊子名 :	
		入手方法 :	
	そ の 他	アドレス :	

(5) 指定年度等

指定地球温暖化対策事業所	2009	年度	事業所の使用開始年月日	1993	年	3	月	28	日
特定地球温暖化対策事業所	2009	年度							

2 地球温暖化の対策の推進に関する基本方針

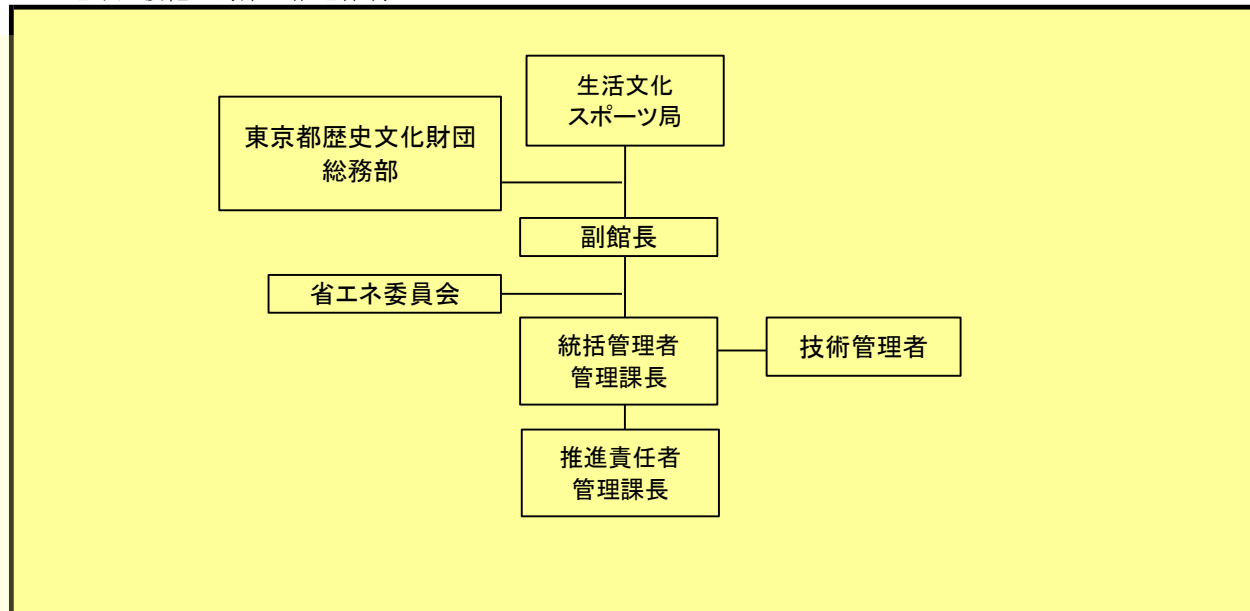
当館では、日頃より環境配慮の取組を積極的に進めている。
 その中で、次の2点を重視して地球温暖化対策に取り組む

- 1 リニューアル準備室での省エネの取り組み
- 2 職員に対する環境意識向上のための啓発活動

再エネの導入・利用に関する取組みについて：

- ・2022年度から実施予定の大規模改修工事で、太陽光パネル等再エネ設備を導入する。

3 地球温暖化の対策の推進体制



4 温室効果ガス排出量の削減目標（自動車に係るものを除く。）

(1) 現在の削減計画期間の削減目標

計画期間	2020年度から		2024年度まで			
削減目標	特定温室効果ガス	過去に行われた省エネ診断等を見直し、エネルギーの使用の最適化・効率化を追求するとともに、入居テナントの協力を得て運用対策を実施することにより、総量削減義務（27％見込み）以上の削減を目指す。 2022年より大規模改修工事実施中。				
	特定温室効果ガス以外の温室効果ガス	当館から排出される特定温室効果ガス以外のガス（その他ガス）は、水道の使用及び下水道への排水に伴う二酸化炭素の排出が主体となっている。したがって、節水を行うことで、その他ガスを削減する。 順次、節水対策の見直しを行って、水道使用量を計画期間中に2％以上削減することを目標とする。 2022年より大規模改修工事実施中。				
削減義務の概要	基準排出量	5,476	t（二酸化炭素換算）/年	削減義務率の区分	I－1	
	排出上限量 （削減義務期間合計）	19,990	t（二酸化炭素換算）	平均削減義務率	27%	

(2) 次の削減計画期間以降の削減目標

計 画 期 間	2025 年度から	2029 年度まで
削 減 標 目	特 定 温 室 効 果 ガ ス	2022年以降に設備機器の改修を伴う大規模改修工事を実施しているため、当該工事で省エネ機器を導入することにより、第二計画期間の平均排出量より10%以上の削減を目指す。
	特 定 温 室 効 果 ガ ス 以 外 の 温 室 効 果 ガ ス	当館から排出される特定温室効果ガス以外のガス（その他ガス）は、水道の使用及び下水道への排水に伴う二酸化炭素の排出が主体となっている。したがって、2022年度以降で実施している大規模改修により、雨水利用設備等を改修することで節水対策を見直し、水道使用量を第二計画期間後、さらに2%以上の削減を目指す。

5 温室効果ガス排出量（自動車に係るものを除く。）

(1) 温室効果ガス排出量の推移

単位：t（二酸化炭素換算）

		2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
特定温室効果ガス（エネルギー起源CO ₂ ）		4,230	4,237	2,370	130	
その他ガス	非エネルギー起源二酸化炭素（CO ₂ ）					
	メタン（CH ₄ ）					
	一酸化二窒素（N ₂ O）					
	ハイドロフルオロカーボン（HFC）					
	パーフルオロカーボン（PFC）					
	六フッ化いおう（SF ₆ ）					
	三フッ化窒素（NF ₃ ）					
	上水・下水	14	12	4	3	
合計		4,244	4,249	2,374	133	

(2) 建物の延べ面積当たりの特定温室効果ガス年度排出量の状況

単位：kg（二酸化炭素換算）/㎡・年

	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
延べ面積当たり特定温室効果ガス年度排出量	85.3	85.5	47.8	2.6	

6 総量削減義務に係る状況（特定地球温暖化対策事業所に該当する場合のみ記載）

(1) 基準排出量の算定方法

☒ 過去の実績排出量の平均値	基準年度：（ 2002年度、2003年度、2004年度 ）
☐ 排出標準原単位を用いる方法	
☐ その他	算定方法：（ ）

(2) 基準排出量の変更

	前削減計画期間	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度
変更年度						

(3) 削減義務率の区分

削減義務率の区分	I - 1
----------	-------

(4) 削減義務期間

2020 年度から 2024 年度まで

(5) 優良特定地球温暖化対策事業所の認定

	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度
特に優れた事業所への認定					
極めて優れた事業所への認定					

(6) 年度ごとの状況

単位：t（二酸化炭素換算）

		2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度	削減義務期間合計
決定及び予定の量	基準排出量 (A)	5,476	5,476	5,476	5,476	5,476	27,380
	削減義務率 (B)	27.00%	27.00%	27.00%	27.00%	27.00%	
	排出上限量 (C = Σ A-D)						19,990
	削減義務量 (D = Σ (A × B))						7,390
実績	特定温室効果ガス排出量 (E)	4,230	4,237	2,370	130		10,967
	排出削減量 (F = A - E)	1,246	1,239	3,106	5,346		10,937

(7) 前年度と比較したときの特定温室効果ガスの排出量に係る増減要因の分析

増減要因	☐ 削減対策	☐ 床面積の増減	☐ 用途変更
	☐ 設備の増減	☒ その他	
具体的な増減要因	令和4年度より実施している大規模改修工事に伴い、博物館を休館している。よって、通常の博物館運営状況とは異なり、収蔵庫等の24時間空調運転を工事中としていることにより排出量が減となったため。		

7 温室効果ガス排出量の削減等の措置の計画及び実施状況（自動車に係るものを除く。）

対策 No	対策の区分		対 策 の 名 称	実 施 時 期	備 考
	区 分 番 号	区 分 名 称			
		【特定温室効果ガス排出量の削減の計画及び実施の状況】			
1	130100	13_空気調和の管理	空調機の変風量制御		
2	130200	13_空気調和設備の効率管理	空調機のローテーション運転制御		
3	140200	14_給排水設備の管理	節水型便座を使用		
4	150200	15_照明設備の運用管理	照明器具のLED化		
5	150300	15_事務用機器等の管理	多機能印刷機の省エネ化		
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					

7 温室効果ガス排出量の削減等の措置の計画及び実施状況（自動車に係るものを除く。）

対策 No	対策の区分		対 策 の 名 称	実 施 時 期	備 考
	区 分 番 号	区 分 名 称			
17					
18					
19					
20					
		（再生可能エネルギーの設備導入及び利用の状況）			
71					
72					
73					
		【その他ガス排出量の削減の計画及び実施の状況（その他ガス削減量を特定温室効果ガスの削減義務に充当する場合のみ記載）】			
81					
82					
83					
		【排出量取引の計画及び実施の状況】			
91					
92					
93					

8 事業者として実施した対策の内容及び対策実施状況に関する自己評価（自動車に係るものを除く。）

当館では、日頃から環境配慮の積極的取り組みを進めている。

平成17年度に集客施設の省エネルギー対策モデルケースとして、実施された省エネルギー対策は次のとおり。

- 1 熱源機の最適運転と運用改善
- 2 冷温水ポンプの制御・適正運転
- 3 空調機の変風量制御
- 4 空調機のパッシブリズミング制御
- 5 空調機のローテーション運転制御

上記省エネ対策の実施、その他当館としての省エネ対策の実施及び運転管理を継続して行っていたが、今年度も大規模改修工事のため、休館していることにより、27%以上削減が達成できた。

再エネの導入・利用に関する取り組みについて：